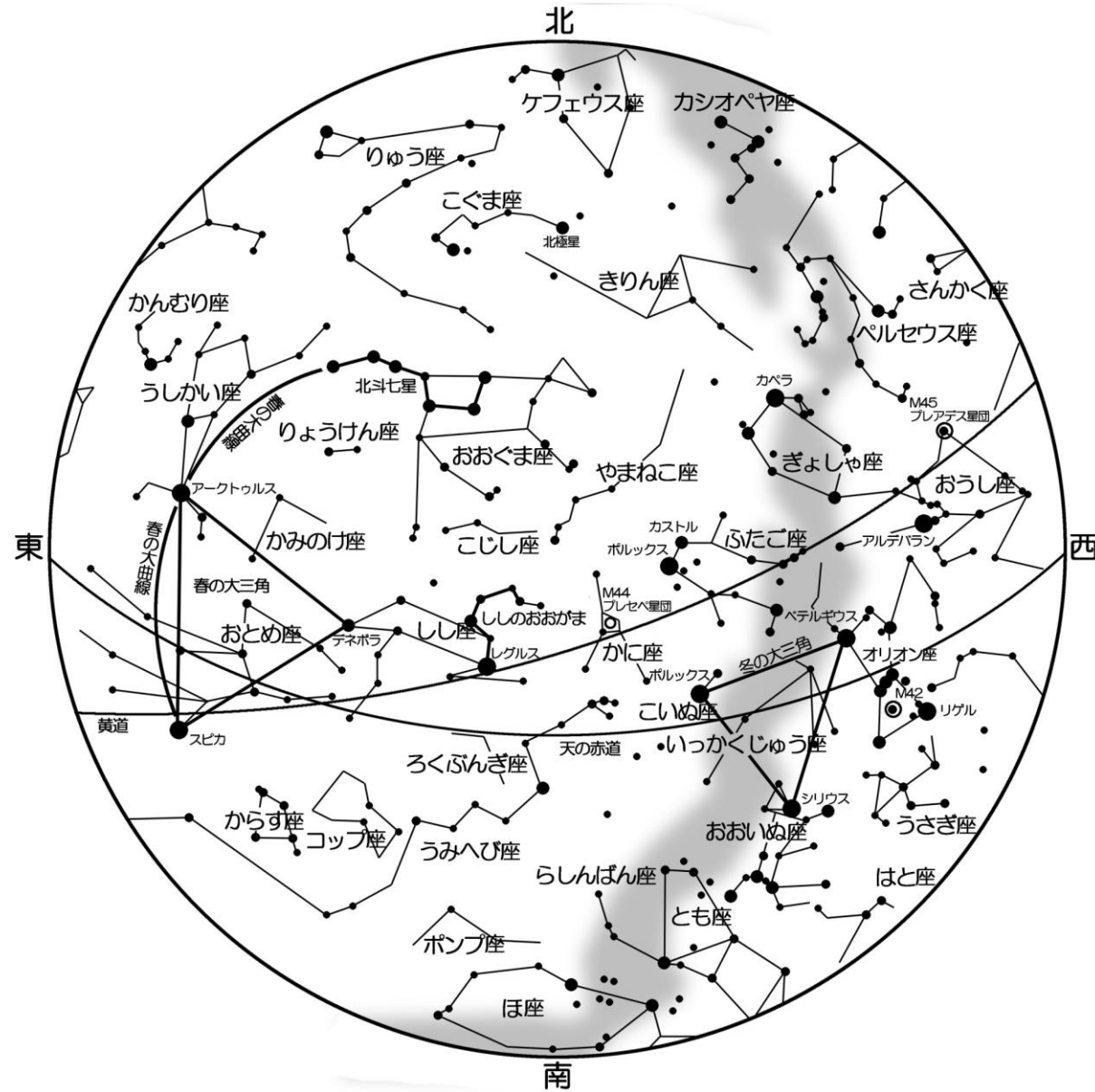


平成30年 4月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～

★4月の星空案内

今月の夜空では西の空に冬の星座たち、東の空に春の星座たちが姿を見せています。春の星座探しは、北の空に見えている7つの星でできる「スプーン」のような星の並び、北斗七星を見つけることから始めます。この「スプーン」の持ち手のカーブに沿って南へ延ばしていくとオレンジ色の1等星アークトゥルス、さらに延ばすと白色の1等星スピカがあります。北斗七星からスピカまでのカーブを『春の大曲線』といいます。この『春の大曲線』をたよりに春の星座を見つけることができます。うしかい座はアークトゥルスから「ネクタイ」のような星の並びが目印です。おとめ座はスピカから「アルファベットのyの字」のような星の並びが目印です。この2つの1等星と2等星のデネボラを結んでできる三角形を“春の大三角”といいます。デネボラは「ししのしっぽ」という意味で、ここにはしし座があります。デネボラから西に目線移すと1等星のレグルスがあり、ここから「?マーク」を裏返したような星の並びが見つかります。この星の並びを『ししの大鎌』といい、ししの頭から胸の部分になります。春の大曲線をさらに延ばすと、「くずれた四角形」が目印のからす座を見つけることもできます。



< 現在見える惑星 >

水星 (3.0 等前後): うお→くじら座付近	観測に適さない。
金星 (-3.9 等前後): おひつじ→おうし座付近	日没後、西の低空でひととき明るく輝く。
火星 (0.1 等前後): いて座付近	夜明け前、南の空で赤っぽく輝く。
木星 (-2.5 等前後): てんびん座付近	真夜中頃、南南東の空で明るく輝く。
土星 (0.5 等前後): いて座付近	夜明け前、南の空で輝く。

注目の天文現象 ～細い月と夕空で輝く金星を見よう！～

今月は、宵の明星の金星が日没後の西の低空でひととき明るく輝いています。4月18日の日の入り頃には、新月から2日後、月齢 2.3 のとても細い月が金星の近くに並びます。

月は自分で光っているのではなく、太陽に照らされて光っています。

新月の日には太陽は月の向こう側にあるため、地球からは光があたっている部分が見えません。この後、日が経つにつれて太陽の光があたっている部分が少しずつ見えるようになります。双眼鏡があると太陽に照らされて光っている部分だけではなく、暗い部分もうっすらと見えていることがわかるでしょう。これは太陽の光が地球にあたって反射し、その反射した光が月の暗い部分を照らすことでぼんやりと光る現象で、『地球照(ちきゅうしょう)』といいます。4月18日の月はまだとても細いため、日没後の明るい空では、見つけづらいかもしれませんが、近くでひととき明るく輝く金星をたよりに探してみてもいいかもしれません。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	火	南東の空で月が木星に接近 (23:14)	23	月	☾上弦 (00:35)
8	日	☾下弦 (16:18)			4月こと座流星群が極大【条件最良】 (03:00)
16	月	●新月 (22:12)	30	月	水星が西方最大離角 (03:24)
18	水	西の夕空で細い月と金星が接近			☉満月 (21:37)



福岡県青少年科学館

サイエンスラボ